

2016 年 11 月 1 日

メカトロニクス制御技術委員会(MEC)

第 15 回メカトロニクス制御技術委員会 議事録(案)

【日時】：2016 年 11 月 1 日（火曜日）15:15～16:20

【会場】：富士機械製造(株) 本社 会議室

〒472-8686 愛知県知立市山町茶碓山 19 番地

【出席者】：

委員長：岩崎 誠(名工大)

一号委員：熱海武憲(千葉工大)、池田英俊(三菱電機)、梅村敦史(北見工大)、桂 誠一郎(慶應大)、島田 明(芝浦工大)、高橋太郎(トヨタ)、辻 俊明(埼玉大)、滑川 徹(慶應大)、平田光男(宇都宮大)、藤本博志(東大)、柳原徳久(日立産機)、山口高司(リコー)、涌井伸二(農工大)

二号委員：伊藤和晃(豊田高専)、内村 裕(芝浦工大)、弓場井一裕(三重大)

幹 事：関 健太(名工大)、名取賢二(千葉大)

幹事補佐：横倉勇希(長岡技科大)

オブザーバ：南方英明(千葉工大)

【配布資料】：

15-1 第 14 回議事録

15-2-1 メカトロニクス制御技術委員会名簿(名取) 未配布

15-2-2 メカトロニクス制御技術委員会メーリングリスト(名取) 未配布

15-3-1 精密サーボシステムの多様性探求調査専門委員会活動報告(伊藤)

15-3-2 実世界ハプティクスの高度化に関する協同研究委員会活動報告(内村) 未配布

15-3-3 モーションコントロールの高機能化に関する協同研究委員会活動報告(弓場井)

【議事】

1. 前回議事録の確認（資料 15-1）

前回の委員会の議事録の確認が行われた。

1.1 名簿およびメーリングリストの確認

名簿に関しての確認が行われ、名簿の電子ファイルは安全な手法によってパスワードを掛けて配布することとする。

1.2 優秀論文発表賞推薦のための採点について

名取幹事からの提案があり、「審査点数は、各セッションの全審査員による審査点数の発表 1 件あたりの平均点で基準化した点数とする。」ことが確認された。

1.3 A 賞や部門表彰のカウントに入れてもらうことについて

SAMCON での発表件数を A 賞や部門表彰のカウントに入れてもらうことについて伊藤委員から説明があった。

A 賞については、D 部門の研究調査運営委員会では検討できないので、本部役員会で検討してもらう必要がある。

部門表彰については、D 部門役員会で検討できる。しかしながら、役員会で議論されたかどうか不明であるので確認が必要である。

IPEC がカウントに入れられてないことに対しての反論としては、毎年実施していることと、研究会の代わりに実施していることが確認された。また、共催およびダブルカウントについては、むしろ推奨されることが説明された。

1.4 Best Paper Award の新設について

次回の SAMCON 実行委員会において、Best Paper Award の新設を提案する。

1.5 優秀論文発表賞の審査員について

優秀論文発表賞(内規)において、幹事および幹事補佐も審査員とする修正を加えることが確認された。

1.6 シンポジウムについて

実世界ハプティクスの高度化に関する協同研究委員会のシンポジウムについて、内村先生から 3/15 午後に実施する提案がなされたことが説明された。

1.7 傘下委員会の解散と開始について

前回議事録の予定通りとなることが確認された。次回の新たな傘下委員会の設置趣意書について議論が行われた。

2. 技術委員会の委員構成について

現委員が一斉に任期切れとなると技術委員会の運営に重大な支障を来す。そこで、現 2 号委員を 1 号委員とし、現 1 号委員の中から任期満了が近い委員を 2 号委員にする。また、南方先生(オブザーバ)は退任されることが了承された。

3. 旧部門資金(産業応用フォーラムプール金)について

旧部門資金のプール金を使い切る必要があり、SAMCON2018 の運営に使用されることが名取幹事から説明があった。

また、来年以降フォーラムを実施する場合には、そのフォーラムでの利益を使用するために、予め前年度中に予算申請する必要がある。しかしながら、本技術委員会では産業応用フォーラムを実施しないので、予算化しないことが確認された。

4. 傘下委員会からの活動報告

4.1 精密サーボシステムの多様性探求調査専門委員会（資料 15-3-1）

- ・第 9 委員会、第 10 回委員会を実施した。
- ・第 9 回委員回では研究会を行い、9 件の発表があった。
- ・IECON 2016 においてのセッションにて 12 件の発表があった。
- ・技術報告はエディタによる校閲中であり、新年第 1 号に乗る予定である。
- ・SAMCON2017 ではモーションコントロールの高機能化に関する協同研究委員会と共同で SS と IS を一件ずつ提案する予定である。
- ・解散報告書は後程提出する予定である。

4.2 実世界ハプティクスの高度化に関する協同研究委員会（資料 15-3-2）

- ・第 9 回委員会を実施した。
- ・第 9 回委員会と同日で研究会を行い、17 件の発表があった。
- ・第 10 回委員会は京都大学で実施し、加えて研究室見学を行う予定である。

4.3 モーションコントロールの高機能化に関する協同研究委員会（資料 15-3-3）

- ・第 8 回委員会、第 9 回委員会、第 10 回委員会を実施予定である。
- ・研究会についても行う予定である。
- ・SAMCON2017 では精密サーボシステムの多様性探求調査専門委員会と共同で IS と SS を企画中である。

5. その他諸連絡

- ・12 月までに解散予定の委員会がある場合は、11 月 11 日までに解散報告書を五十嵐先生に送付しなければならないことが確認された。
- ・次の注目論文を決める必要がある。

以 上